

事後評価結果（令和元年度）

担当課：中日本高速道路(株)経営企画課

担当課長名：塩梅 崇

路線名	一般国道468号首都圏中央連絡自動車道 (茅ヶ崎JCT~八王子JCT)		事業区分	一般国道 高速自動車国道	事業主体	国土交通省 関東地方整備局 中日本高速道路(株)			
起終点	自：神奈川県茅ヶ崎市西久保(茅ヶ崎JCT) 至：東京都八王子市裏高尾町地先(八王子JCT)				延長	38.2km			
事業概要									
首都圏中央連絡自動車道(以下、「圏央道」)は、東京都心から半径およそ40~60kmの位置に計画されている延長約300kmの高規格幹線道路であり、茅ヶ崎JCT~八王子JCT区間は、その一部を形成する延長38.2kmの自動車専用道路である。									
事業の目的・必要性									
圏央道は、3環状9放射の道路ネットワークを形成し、東京都心部への交通の適切な分散導入を図り、首都圏全体の道路交通の円滑化、首都圏の機能の再編成等を図る上で極めて重要な路線である。									
事業概要図									
事業の 効果等	事業期間	事業化年度	S63年度	用地着手	H5年度	供用年	(計画) H26年度	変動	1.0倍
		都市計画決定	S63年度	工事着手	H8年度	※1	(実績) H26年度		
	事業費	計画時	(名目値) 9,385億円 (実質値) 14,765億円		実績	(名目値) 8,628億円 (実質値) 13,699億円		変動	0.9倍
	交通量	計画時	20,000~51,900台/日 (平成23、25年度)		実績	18,200~77,900台/日 (平成30年)		変動	150%
	旅行速度向上	28 → 78 km/h (供用前現道→当該路線) (供用前年次)H21 (供用後年次)H27		交通事故減少		201 → 116 件/億台キロ (供用前現道→供用後現道+当該路線) (供用前年次)H20-H21 (供用後年次)H28-H29			
	費用便益 分析結果 (事前) ※2	B/C	総費用：11,139億円 事業費：10,619億円 維持管理費：520億円		総便益：22,990億円 走行時間短縮便益：19,781億円 走行経費減少便益：2,057億円 交通事故減少便益：1,152億円		基準年		平成23年 平成25年
	費用便益 分析結果 (事後)	B/C	総費用：14,241億円 事業費：13,385億円 維持管理費：856億円		総便益：30,108億円 走行時間短縮便益：27,848億円 走行経費減少便益：1,943億円 交通事故減少便益：317億円		基準年		令和元年
事業遅延によるコスト増		費用増加額		— 億円		便益減少額		— 億円	
事業遅延の理由									
—									

	客観的評価指標に対応する事後評価項目 <ul style="list-style-type: none"> ・物流効率化の支援 特定重要港湾もしくは国際コンテナ航路の発着港湾へのアクセス向上の状況 ・個性ある地域の形成 IC等からのアクセスが向上する主要な観光地へのアクセス向上による効果 ・災害への備え 緊急輸送道路が通行止になった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成 <p style="text-align: right;">他16項目について効果の発現が見られる。</p>
	その他評価すべきと判断した項目 特になし
事業による環境変化	環境影響評価に対応する項目 【大気質】 <ul style="list-style-type: none"> ・当該区間の整備により自動車からの二酸化炭素・窒素酸化物・粒子状物質の排出量が削減され、環境負荷低減に貢献。 CO2：約139千トン/年削減 NOX：約522トン/年削減 SPM：約39トン/年削減
	その他評価すべきと判断した項目 特になし
事業評価監視委員会の意見 対応方針（案）のとおり対応方針を了承	
事業を巡る社会経済情勢等の変化 <ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度 圏央道（白岡菖蒲IC～久喜白岡JCT）開通により関越自動車道と東北自動車道が接続 ・平成27年度 圏央道（神崎IC～大栄JCT）開通により常磐自動車道と東関東自動車道が接続 ・平成28年度 圏央道（境古河IC～つくば中央IC）開通により東北自動車道と常磐自動車道が接続 ・平成28年度 首都圏の高速道路料金変更 	
今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性 費用対効果分析の結果や現時点における利用状況、事業効果発現状況から、整備効果が得られており、本事業としては今後事後評価の必要性はないものと考えられる。	
計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性 特になし	
特記事項 特になし	

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を、割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの

※1 当該評価区間の最終供用年を記載（海老名 JCT～海老名：H21 年度、高尾山～八王子 JCT：H23 年度、海老名～相模原愛川：H24 年度、茅ヶ崎 JCT～寒川北：H25 年度、相模原愛川～高尾山、寒川北～海老名 JCT：H26 年度）

※2 事前は平成 23 年度に実施した相模原愛川 IC～八王子 JCT、海老名 IC～相模原愛川 IC、海老名南 JCT～海老名 IC 及び平成 25 年度に実施した茅ヶ崎 JCT～海老名南 JCT の再評価（全体事業）を記載